

52.保育における「心の成長」

2013年11月1日 社会福祉法人 江刺保育園

保育施設として確認しておかなければならないことは、子どもの成長には段階があるということです。人間としてより良く生きるための基礎を作るのが乳幼児の保育です。それぞれの年齢における成長の段階を確実に体験することによって、子どもたちはあるべき人間として成長できるのです。平成27年度から保育制度が変わるのですが、3歳以上から学校教育を行うということが決まりました。3歳からの学校教育を、出来る、出来ないということに重点を置く教育であると思い違いすると、子ども達の心身の大切な基礎の部分が形成されない恐れが出てきます。



離乳食を食べ始める赤ちゃんに高級なステーキを与えるようなものです。また、歩き始めたばかりの子どもに棒高跳びをやらせるようなものなのです。3歳以上の子ども達に学校教育を行うということは、目に見えるかたちで子どもの能力をのばしその部分に主眼を置いた指導することではないのです。保育園での教育は保育と一体になっています。それぞれの子ども達の思いを肯定的にとらえ、子どもの自主性を尊重しながら成長を支えています。従ってこの乳幼児期の子ども達に、ここまでが保育であるとかここからは教育であるという区分は実際の保育現場においては必要ではないと私は思います。保育には教育的な要素があるし、教育には保育的な要素が当然含まれているのです。子ども達を集団でとらえるのではなく、それぞれの子ども達の個々の姿を見極めながら、成長を支えるのが乳幼児期の子ども達に必要な保育であり教育なのだと思います。

心の成長とは、まず赤ちゃんたちには、安心感を持たせることです。そして目に見える環境に興味を持ち、人の呼びかけに答え、優しさを感じ取る心を獲得することです。歩くことができるようになったら、多くの子どもと一緒に遊ぶことの楽しさを体験することです。友達を獲得することで楽しさのほかに、楽しくない気持ちも体験するのですが、その中で自制心を養い、自分という人間を見つけることができます。卒園する頃には他者と気持ちを合わせることができるようになります。協調心が身に着くのです。共に生きること、共に生きたいという心の基盤が形成されます。これが重要なのです。

私たち人間は一人で生きるのではなく、自分の命は多くの人たちの命も支える存在であることを自覚しながら生きるのが自然な生き方です。「愛する心、愛される心」を形成するのが保育なのです。保育園の教育の本質はこの部分にあります。この心の成長が様々な能力の成長に繋がっているのです。自分のためにだけ様々な能力を身に着けるのではなく、今の自分は多くの人たちによって支えられた結果であることを感謝し自覚できるように、子どもたちを保育し教育するのです。そして社会全体がそのようになることを祈りながら私たちは保育をしています。利己的な自己実現のために生きているのではなく、多くの命を守り、命を支えるために今を生きていることを喜び、自覚できる「心の成長」した子どもになるように支える働きが保育なのです。

フライビーンズ（4人分）

大豆（水に付け置きおきしたもの
水煮でも可）：60g
片栗粉：少々、油、砂糖：小さじ
2
しょうゆ：小さじ1、青のり：少々

作り方

- ① 水に付けた大豆の水分を切り、片栗粉をまぶして油で揚げる。
- ② 砂糖、しょうゆ、をレンジで温め揚げた大豆にかからめる。
- ③ 青のりをまぶして出来上がり。

